

## 高崎市域における路線バスの課題と利用促進に向けた研究

経済学部 教授 大島 登志彦

### 1. 高崎市内の路線バスの概要と課題

高崎市内を走るバスは、以下3タイプが運行されている。

- [1]高崎駅を起点に前橋や渋川、旧箕郷・榛名町などを結ぶ一般路線バス（バス事業者が運行）
- [2]中山間地域で廃止代替バスとしてスタートした委託路線
- [3]市内循環バス「ぐるりん」の3タイプが運行されている（「よいバス」と「はるバス」は[2]と[3]の中間的性格）

この研究では、高崎市内の路線バスの利用促進と活性化、そのための市民や観光客向けの適正な資料作成や広報のあり方などを提案することを目的とし、高崎市交通政策課と連携・懇談等を重ねてきた。その中で今年度の研究では、研究者が主導で進められる部分の研究として、市内の路線バス全体の考察と[2]グループの一部路線の実態と課題及び改善提案など（2章）、市内の観光スポットへのバス案内を作成した（3章）。4章では、出張視察調査先と概要、視察事情・成果を記述した。

### 2. 高崎市内の路線バスの全般的課題と事例考察

上記[1]グループの一般路線バスについては、4社で運行されるので、運行効率はよくない。例えば、時刻表などの案内資料についても連携が弱い。今後バス事業者4社が連携して路線や運行時刻を検討し、「ぐるりん」各路線とも協調したダイヤを組むことが要望される。

また、民営バスの撤退にあわせてスタートした中山間地域の廃止代替の委託路線[2]グループの路線は、開始以降十数年間大きな再編や見直しがなされないまま、利用者の減少が続いてきたと考える。総括的な課題として、距離制運賃が継続して「ぐるりん」に比べて割高なことが、利用が低迷している一つの要因と考える。観光路線の伊香保-榛名湖線を除き、均一運賃または最大300円程度の運賃体系の確立が望まれる。その中で、以下の路線について、今回特に問題意識を持って、提案を含めて考察した。

#### ・箕郷地区の2路線（駒寄・はるな郷、渋川方面）

上記[1]に含まれる幹線ルートとの接続改善が要求される。とりわけ、渋川方面路線は、渋川の学校や病院に向かう高齢者や高校生の利用が多いので、帰路の足として、昼頃に渋川発の便の設定を要望したい（午前外来の終了や試験中の下校）。また、駒寄・はるな郷方面は、利用が極端に減少していると思われるうえ、「ぐるりん」などと並行する区間があるので、両者を統合して再編するのが効果的と考える。また、日中の時間帯には、デマンド運行

も視野に入れて検討していく必要があろう。

・東吾妻連絡線（榑田-大戸で原町方面連絡-浅間隠温泉郷間）

これまで、筆者は倉渕地域などの交通不便と高額になる運賃の高校生への一部補助などを提唱してきた。そのなかで、高崎市は、高齢者バス運賃補助や遠距離通学高校生補助などの制度を、県内では先駆的に導入した。

今年度、当路線の将来展望の一環として、高崎市と東吾妻町の担当課を含めて数回懇談した中で、利用者は極端に減少しているが、高崎市（榛名・倉渕地域）から吾妻高校への通学の足を確保する意義が大きいことを考察した。その場合、高校生の運賃軽減を提唱してきたが、当路線について、筆者の提唱が効用し、平成 29 年 4 月から割引率の高いバスカードが適用され、高額な運賃負担が若干軽減されている。

### 3. 観光スポットへの路線バス案内

高崎市を初め群馬県内のバス事業は、高崎市内の状況を上記したように、頻度が低い上、経営主体が異なる路線が競合するので、利用者には分かり難い。とりわけ、観光客にとっては、案内が不十分な上、観光スポットへバスで行くことが困難な傾向にあらう。そのため、筆者は平成 26 年に、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を契機に、それらに向かう公共交通時刻表（下記①、複数の鉄道とバスを網羅）を作成してきた（A4 サイズ、年毎に 2 回改訂）。この研究の一環として、筆者の知見でバス案内と各スポットの概略案内の下地を作り、ゼミ学生のアルバイト協力で、同様式で新たに、高崎市内の同方向への複数観光スポットを総合したバス時刻表を作製した。

① 富岡製糸場と絹産業遺産群

② 群馬の森（近代美術館と歴史博物館）と高崎市歴史民俗資料館（「ぐるりん」群馬の森線、群馬中央バス県立女子大線）

③ 上野 3 碑（上信電鉄、群馬バス南陽台線、「よしいバス」）

④ 日本絹の里と土屋文明文学館（関越交通高崎-群馬温泉・渋川線と前橋-土屋文明文学館線=新前橋から NHK 前連絡、群馬バス高崎-箕郷・榛東役場線、「ぐるりん」群馬町内線）

この作業・研究を通して、路線バスの案内をトータル的に行なう適正な資料作りの一端と今後のバス再編の一端が考察できたと考える。

### 4. 資料収集と視察のための出張

高崎市内で導入できそうがかつユニークな事例と思われる近接数都市などをまとめて、下記の視察出張を行った（主なもの）。この成果は、今年度の調査で大きな知見を得たし、今後の高崎市内の路線バス再編検討の中で、有益な事例紹介や提案として、活用していきたい。

・鹿島鉄道廃止後の BRT と鹿行地域で運行開始した広域連携バス等（9 月 24～25 日）

- ・10月26日:只見・鬼怒川地域（観光乗合タクシー、地域連絡バス（只見・田島間）、水陸両用バス=榛名湖等で導入の可能性）
- ・1月7日：流山市の交通事情（流鉄・コミュニティバス・一般路線バスが混在=複数バスの効果的運用事例）
- ・1月25日：新潟市と近郊（燕三条→弥彦、新潟市のBRT、鉄道を核とした新津地区）
- ・3月11～13日：和歌山県東部（阪堺電鉄、和歌山電鉄、紀の川・かつらぎ市町=鉄道駅から中山間地域への事例）のバス